

令和元年度 月島第一小学校 自己評価報告書

学校名：月島第一小学校

所在地：中央区月島4-15-1

校長名：荒川 比呂美

児童数 453名

学級数 15

教員数 29名

職員数 3名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

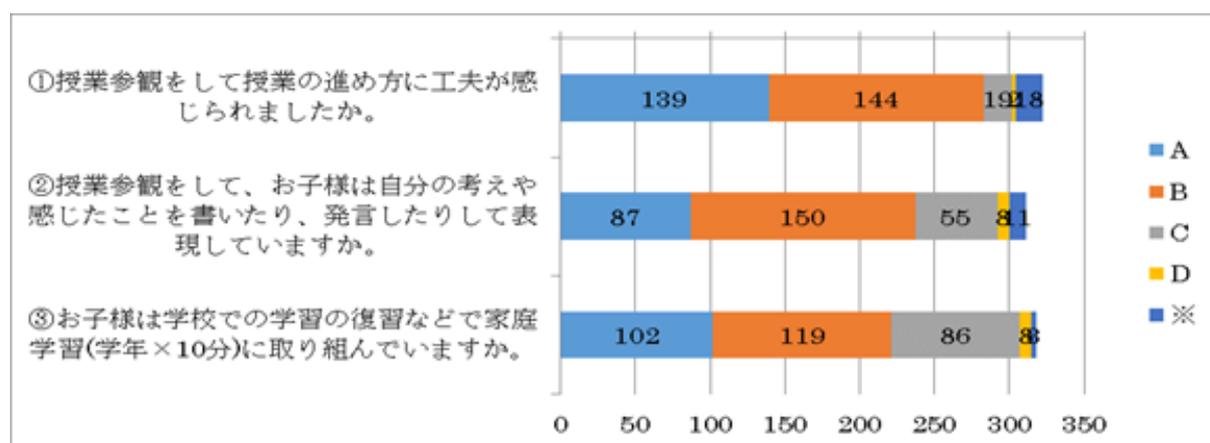
【保護者アンケート 320名 提出率約 71%】

評価：保護者及び児童

【帯グラフは保護者アンケートの結果】

[A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない ※よくわからない]

重点目標 1



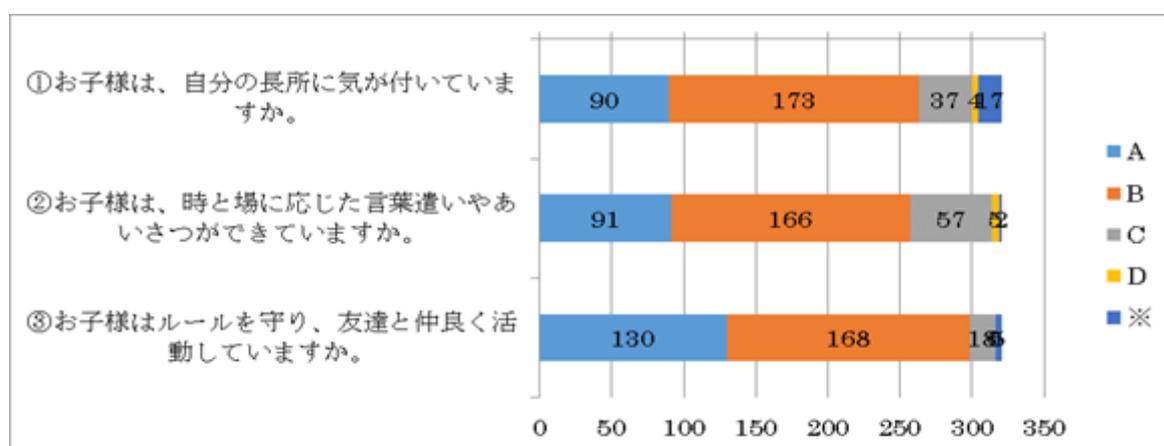
指導法の工夫がなされ、分かりやすい授業につながっているかの問いについては、「あてはまる・達成」の評価を9割弱の御家庭からいただいている。

子供たち自身が、自分の考えや感じたことを適切に表現したり、家庭学習を習慣化したりしているかについては、2割から3割の方が課題であると認識していることになる。

個別の補習学習「スタディ月一」等で基礎学力をさらに定着させ、小集団等を活用した授業形態の工夫により、質の高い対話場面を生み出し、自分の考えや思いを適切に表現できるようにするなど、今後も引き続き分かりやすい授業を追究していきたいと考えている。

家庭学習の習慣化については、年度当初に各御家庭に「家庭学習のすすめ」を配布し、学習用具の準備や学習時間を決めて取り組む等、学習環境を整えていただくよう連携を図っている。今後も学年だよりや学級だよりを継続し、御家庭で行うべき学習内容をお伝えしていきたいと考えている。

重点目標 2

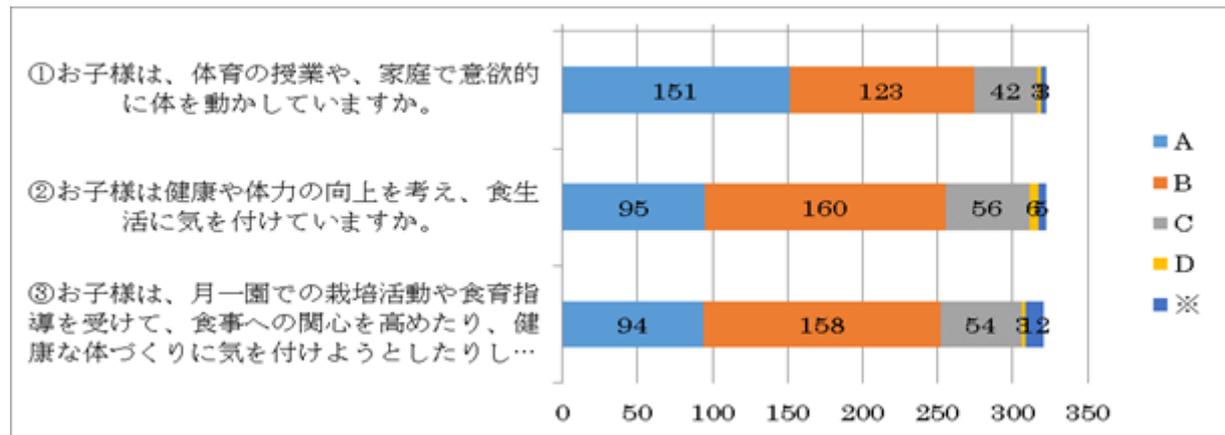


この目標については、どの項目も「あてはまる・達成」の評価を昨年度以上にいただいる。

「自分の長所に気付いているか」の問いについては、自己肯定感が低いという調査結果が出ている日本の子供たちだが、月一っ子は年々自らの自信を高め、生き生きとした姿が保護者の実感としてあるのではないかと考える。

「言葉遣いやあいさつ」については、昨年と同様に「あいさつ運動」を行っており、その成果が少しずつこの評価につながった。しかし、教職員側の印象としては、朝元気がなく、明るく進んであいさつすることができない子供たちもまだまだおり、解決していきたい課題だと捉えている。児童一人一人の心の安定を見守りながら、今後も進んであいさつする児童の育成を推進していきたいと考えている。

重点目標 3



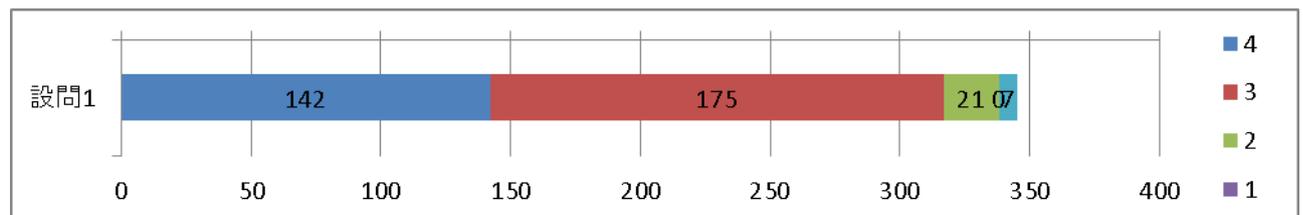
この目標については、どの項目も昨年度に比べ大きな変化はないものの、わずかに下降気味である。

本校の児童は、比較的休み時間の外遊びを好み、多くの子供たちが鬼遊び、なわとび、一輪車、ドッジボール等を楽しんでいる。都の体力・運動能力・生活・運動習慣等調査でも、どの学年も全国平均や都の平均を上回る種目が多くある。しかし「活動的な身体活動(11歳)週2回以上実施者の国際比較をみると主要先進国の中で日本はとても低い水準になる。体力の低下が懸念される中で、帰宅後の体を動かす遊び時間の確保はとても大切になると考える。また、体育学習においても友達との比較に偏らず、自らの伸びを感じられる授業の工夫を行うことで、少しでも運動を好む児童を育てていきたい。

食に関しては、保護者の献身的な協力の下、月一園での収穫の喜びを体験したり、テーマを決めた工夫した給食を提供したりする中で、家庭での食生活も含めた健康的な生活習慣を身に付けるよう引き続き声を掛けていく。

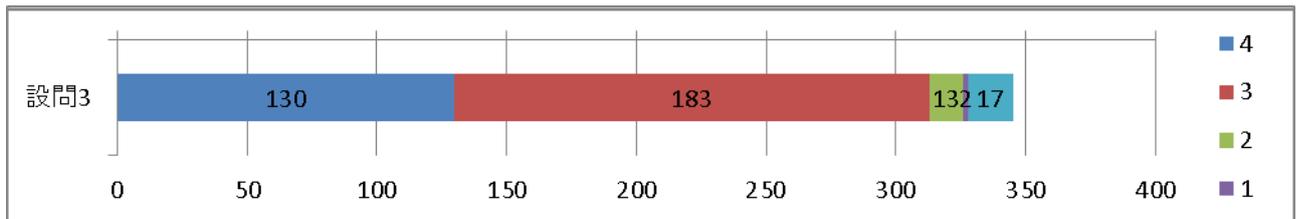
2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

設問1：学校は学習内容がわかりやすく楽しい授業をしている。



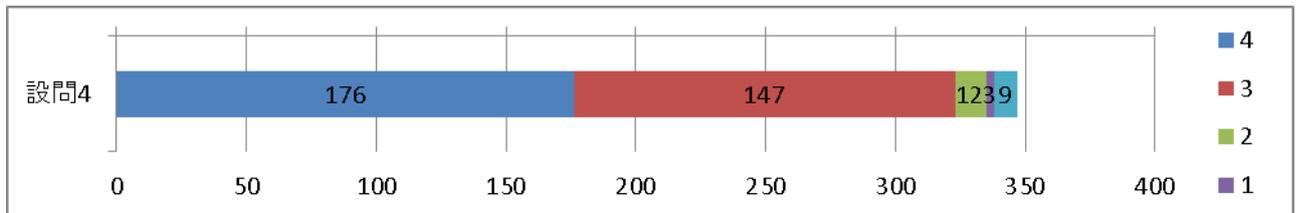
設問 2 : 学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている。

問

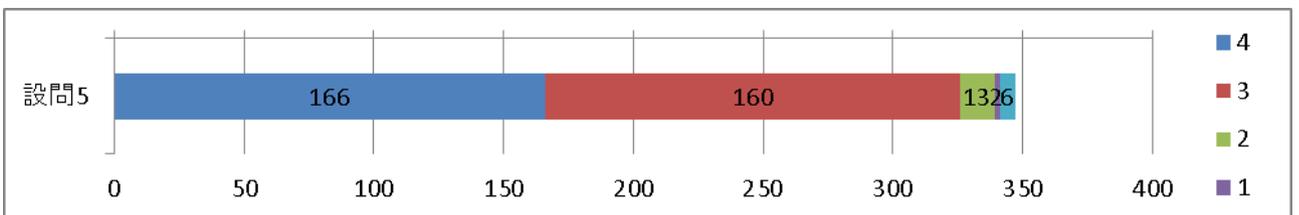


3 : 学校は通知表等を通して児童の学力を適切に評価している。

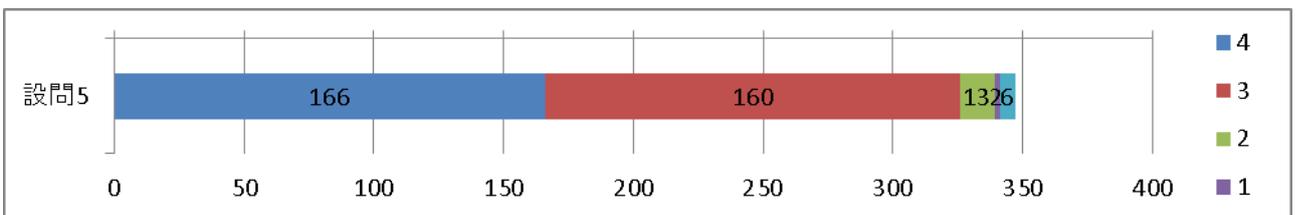
設



問 4 : 学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している。

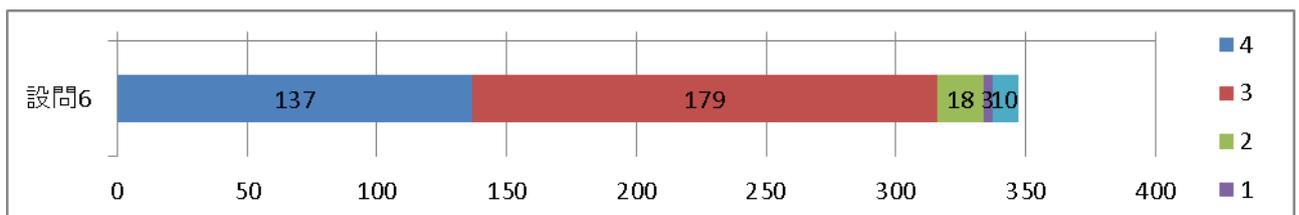


設問 5 : 児童は明るく生き生きと学校生活を送っている。

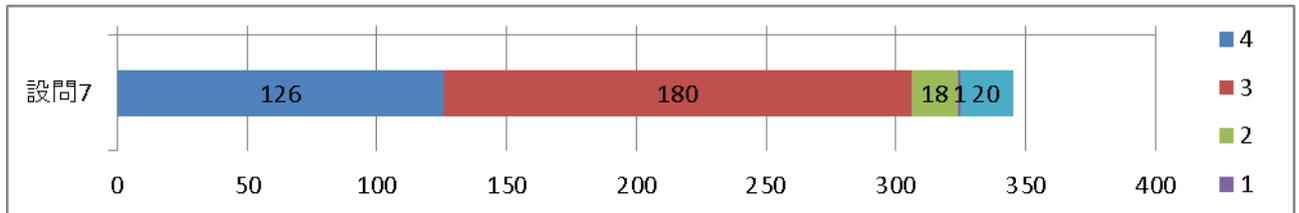


設問 6 : 学校は児童の健康・体力の増進に努めている。

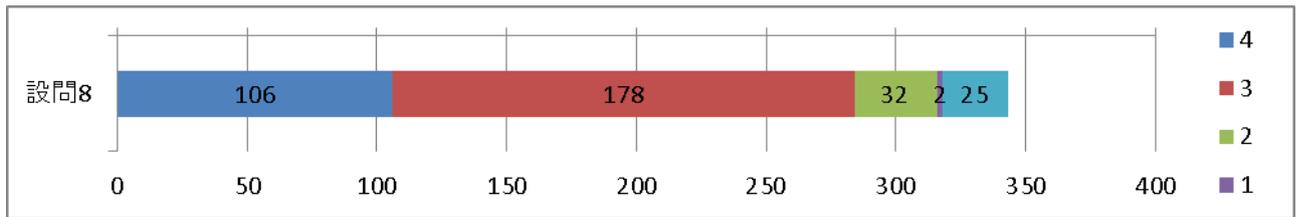
設



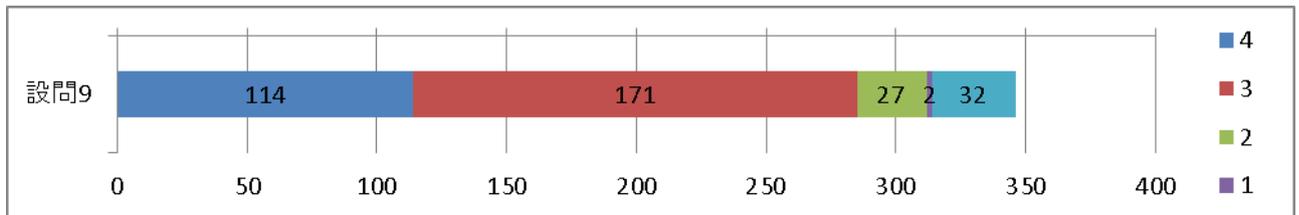
問 7 : 学校は道徳教育に力をそそぎ、児童に思いやりの心や規範意識を育てている。



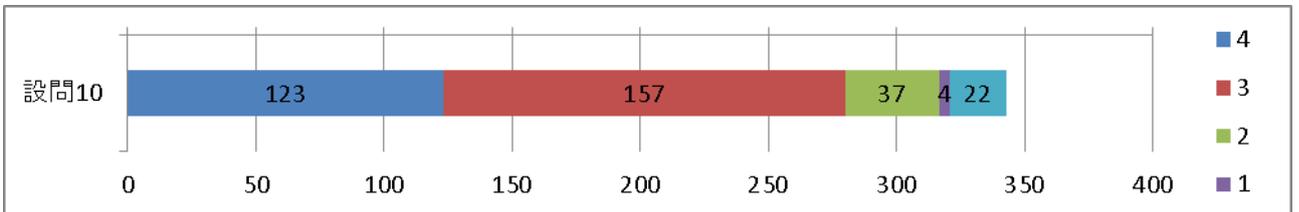
設問 8：学校はボランティア活動や清掃活動などの様々な奉仕活動を行っている。 設



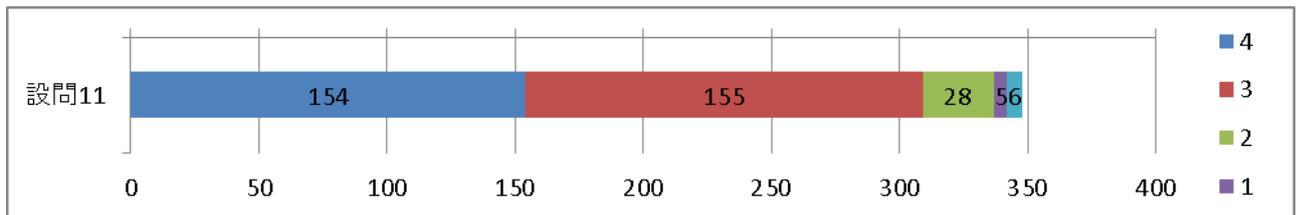
問 9：学校は教育活動において人権を尊重する姿勢で子どもの指導にあたっている。



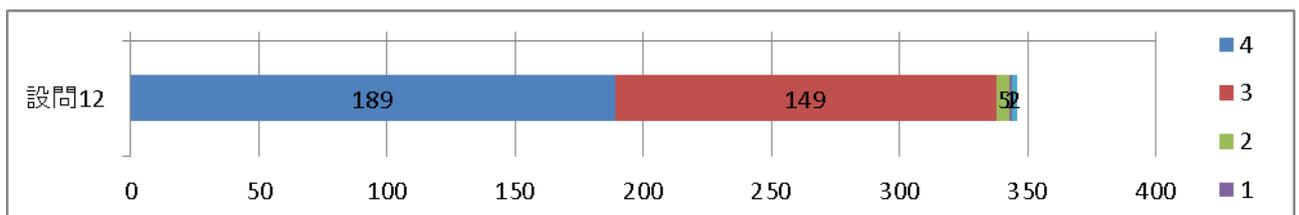
設問 10：学校は児童の問題や悩みトラブルなどを見逃さずに相談にのったり指導したりしている。



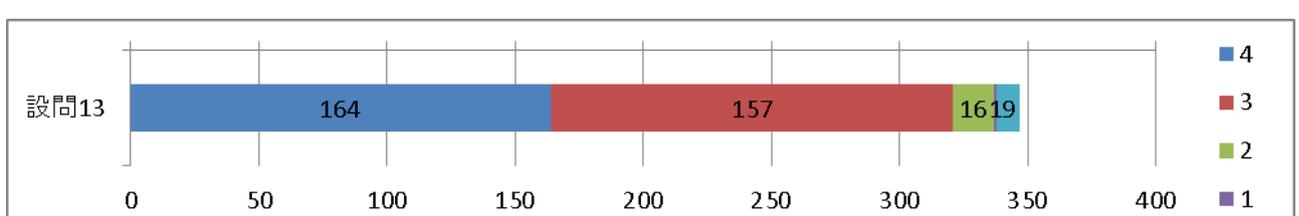
設問 11：学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している。 設



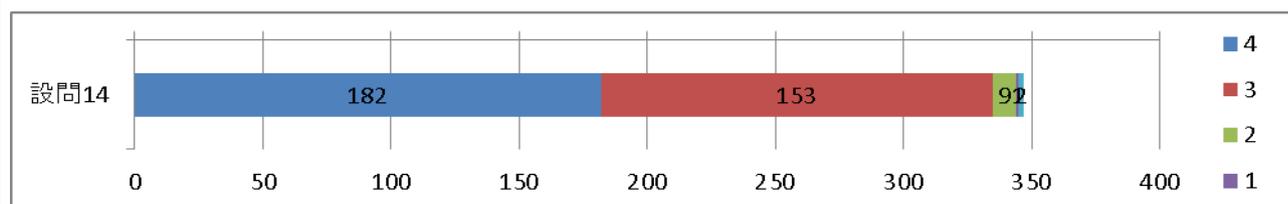
問 12：学校は保護者や地域の人々が積極的に教育活動にかかわれるようにしている。



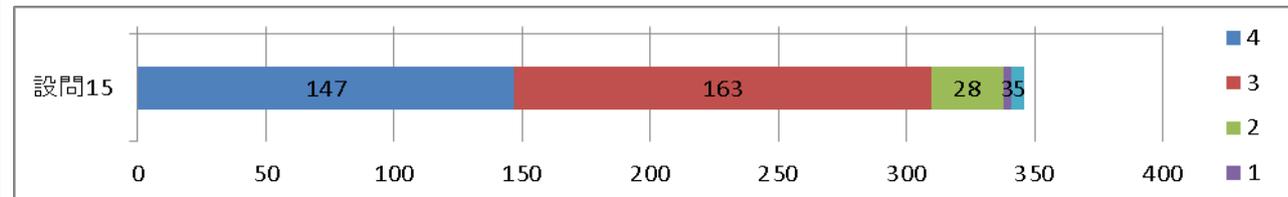
設問 13：学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている。



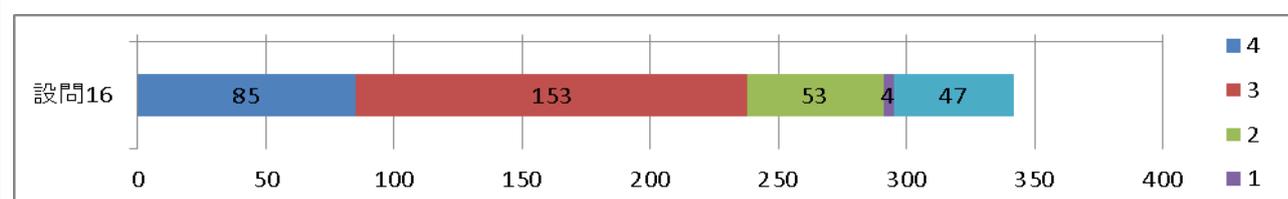
設問 14：学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている。



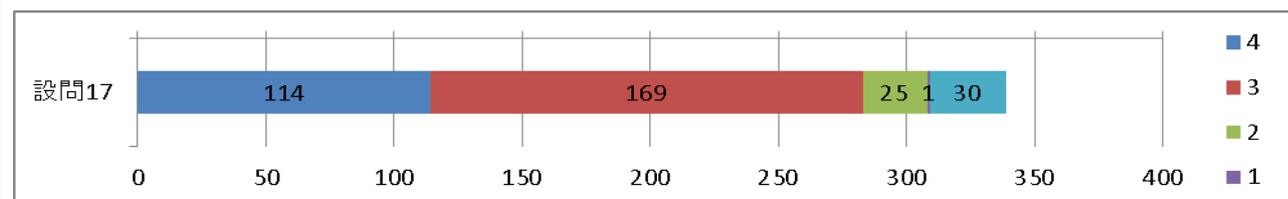
設問 15：学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすく内容も適切である。



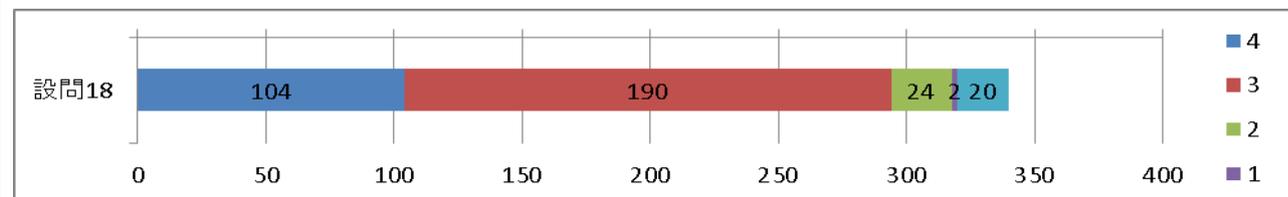
設問 16：学校はコンピュータや図書室を十分活用している。



設問 17：学校は地域を生かした教育活動や行事がある。



設問 18：保護者は学校の教育活動に積極的にかかわっている。



3 今後の改善方策

- ・ I C T教育（プログラミング教育を含む）を通して児童の論理的に考える力を育成していく。学習指導の効果を高める I C T活用を目指し、I C T活用と教師の授業技術との関連を意識していく。活用の場面やタイミング、活用する上での創意工夫が教師の授業技術に大きく関わっていると考えられるため、校内研究や授業実践を行うことで各教科の中に定着させていく。また、日常的に高頻度で活用できる I C T環境を整備することで、より授業の質が高まると考えられる。
- ・ 児童の問題や悩み、トラブルへ対して、実施した児童アンケートを活用し、迅速な対応を図る。年間3回、担任による面談を実施し、児童の話をよく聞き、気持ちを受け止め児童の悩みを解決していく。家庭・養護教諭・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・学校サポートチーム等と連携・協力していく。
- ・ 評価制度の意義を伝えたり、各担任からの声掛けをしたりすることでアンケートの回収率を更に上げていく。

* 3月に各学校のホームページで公表していきます。